

遠心分離機（形式：SR-Z 30P）スラッジ清浄方法

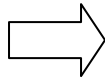
1) 開放掃除時期

エンジンシステムオイルの汚損は使用燃料油、潤滑油保有量、エンジン稼働状態等により異なります。遠心分離機に入った油中の不純物は、遠心力により回転体の内壁に分離付着しますが、使用当初は1週間毎に開放し、回転体の内壁に付着した状況を見て、開放掃除間隔を見定めて下さい。通常500時間稼働で5～15mmの不純物が回転体内壁に付着しますが、約10mm程度不純物が付着した時に掃除することをお薦めします。

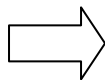
注) 長時間回転体を取り外さないとスピンドルと回転体が固着して取り外せなくなります。

2) 掃除方法

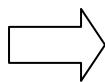
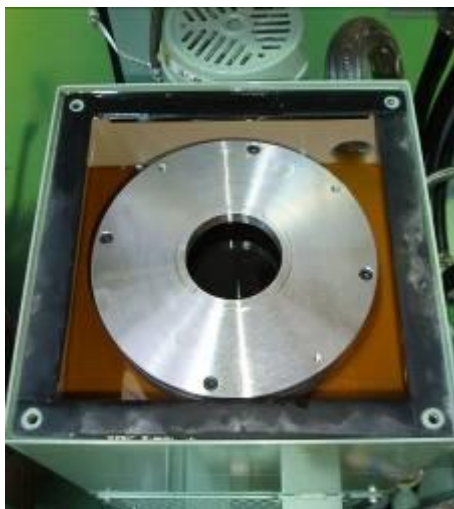
- ① 装置全体が完全に停止した事を確認して下さい。
- ② 入口管(耐油ホース×2)のカプラを外します。



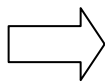
- ③ ノブボルト(4本)を取り外し、カバーを外します。



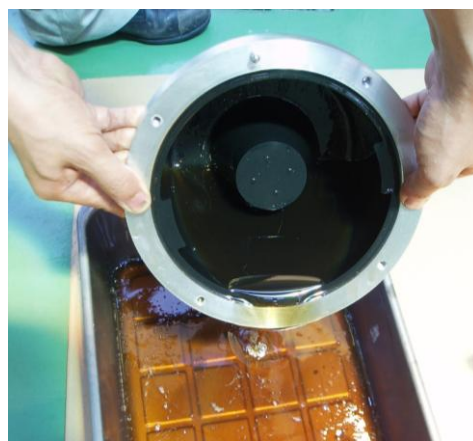
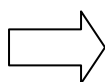
④ 回転体を垂直に引上げ、取り出します。



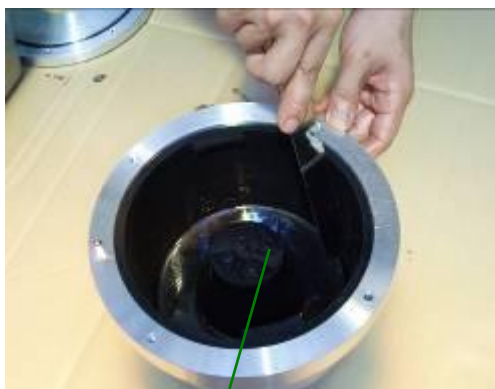
⑤ 回転体のカバーを取り外す。六角ボルト4本で固定されていますので、T型レンチ(5mm)で取り外します。



⑥ 回転体内部のオイルをオイルパン等の容器に移します。



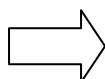
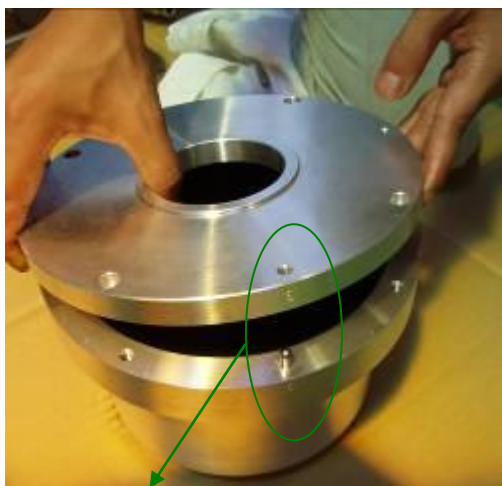
- ⑦ 回転体の内側には、スラッジ受ゴムバケット※ が装着されています。
ゴムバケットの内壁には、スラッジが層を成して付着しておりますので、ヘラのようなもので完全に除去し、良く掃除して下さい。



※ スラッジ受けゴムバケット

- ⑧ 回転体のカバーを締めます。セットピン※を確認し、六角ボルトを対角に順次締めて下さい。先に一ヶ所のみ強く締めると他のネジが締まらなくなります。

注1) この際、回転体カバーの内側にはめてあるリング※を確認して下さい。外れていたり、切れたりしていると隙間からの油漏れやスラッジが片寄り付着して振動の原因になります。



※ セットピン

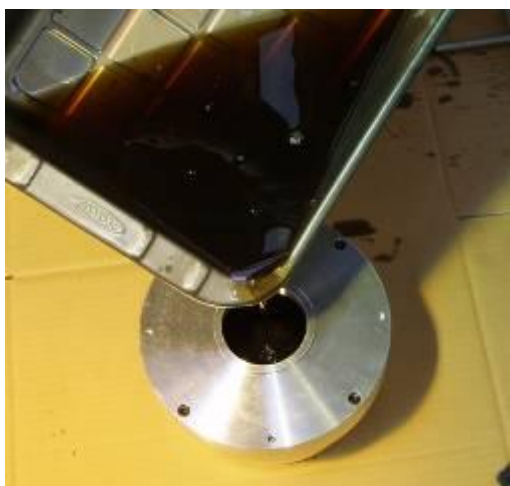
※ リング



注2) ゴムバケットを再びセットされる時は良く手で下部方向に押しつけて、内部の空気を出す様にして下さい。

⑨ 回転体の掃除前に容器に移したオイルを掃除後の回転体の中に戻します。

注) スピンドルシャフト部のグリスが付いていない場合は、シャフト部にグリスを塗って下さい。



⑩ 回転体をケースの中に戻し、ノブボルトを締めて、カバーを戻します。回転体をケース内に戻す際は完全に回転体をスピンドルシャフトにはめ込んで下さい。スピンドルシャフトの溝に回転体裏側にあるピンがはまらないとケースの蓋は締まりません。



⑪ 起動は取扱説明書の操作手順により再起動を行って下さい。